

【GPA制度について】

GPA制度を用いた成績評価システムは、2009年度から本学に導入されています。

GPA (Grade Point Average) はアメリカの大学で開発され、今日では世界標準の成績評価基準として定着しつつあります。日本の多くの大学においてもこの制度が導入され、学生はこのGPAを用いて各種の支援（留学基準判定、成績優秀者表彰など）を受けることが可能になります。

【GPA制度の目的】

第一の目的は、評価基準に基づく厳格な成績評価をおこない、その成績評価結果を学生に明確に示すことにあります。この制度は、日本の大学の国際的通用性を質的に確保する観点から、文部科学省も重要な施策として各大学に導入を推奨しています。

学生にとってのメリットは、自分の学修努力が平均ポイントという形でわかりやすく、かつ厳格公正に評価されることでしょう。そのポイントを知ること、自分の勉強方法の見直しに役立てましょう。また、大学側も、学生のポイントを参考にして、学生の修学指導を効果的におこなうことができます。

【GPポイントとGPA計算方法】

本学のGPAは、履修登録した科目毎の5段階評価(秀・優・良・可・不合格評価)を4から0までのGP(Grade Point)に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点となります。

◆GP(Grade Point)

評価	成績基準 (100点法)	可否	GP (Grade)
秀	100～90点	合格	4
優	89～80点		3
良	79～70点		2
可	69～60点		1
不可	59～1点	不合格	0
不可×	0点		0
失格	失格		0

◆GPAの計算例

授業科目名	単位数	評価	GP	ポイント数 (単位数×GP)
ことばと日本文化	2	優	3	6
歴史と国際情勢	2	秀	4	8
人間と哲学	2	優	3	6
英語 I	1	良	2	2
ドイツ語 I	1	可	1	1
健康の科学	2	優	3	6
職業人入門	2	優	3	6
経済学概論	2	不可	0	0
経済史	2	良	2	4
合計	16			39
GPA				2.43

※上表では「経済学概論」が不可の評価です。もし可の評価であったならどうなるでしょう？
⇒2単位×1P=2Pが加算されてGP合計が41となります。したがってGPAは $41 \div 16 = 2.56$ となり、0.13P上がります。一目瞭然ですね。履修した科目に不可の評価がつくとGPAが下がるのです。これがGPA制度の特徴であり、厳しさでもあります。

※忘れないでください！履修を始めた科目を途中であきらめると、GPの平均値が下がります。一度履修を決めた科目は、単位修得に努めましょう。GPAを上げるか下げるかは自己責任ですが、少しでもGPAを上げると成績優秀者表彰などの支援を受けることが可能になります。

※履修申告後、自分が申告した履修科目について、修正する期間を設けています。その間に取り下げた科目については、GPAのポイント計算には反映されません。言い換えれば、履修申告した科目を放棄し、失格などの不合格評価になると必然的にGPAが下がります。本学が定める履修修正期間に、受講を取りやめる科目は削除してください。なお、履修修正期間後であっても、怪我等により「実技科目」の受講が不可能となった場合は、履修の取り消しが可能です。